

## 普及活動情勢報告（令和7年5月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

### 安全な無人ヘリでの防除に向けて ～第1回無人ヘリ事業組合委員会～



使用する除草剤や  
熱中症対策について  
協議する参加者

4月23日、JAなんごく南支所で第1回無人ヘリ事業組合委員会が開催され、生産者16名が参加しました。

JAから無人ヘリでの防除の注意点や散布料金について、農業改良普及課から平年と比較した稲の生育状況、向こう3ヶ月の天候について説明しました。また、農薬の安全使用、熱中症対策についてチラシを用いて啓発を行いました。

生産者からは、「キシュウズメノヒエに効果がある除草剤の成分は何か」「農薬散布する際はどんな服装が良いか」などの質問があり、無人ヘリでの防除に向けて資料を熱心に読み込む姿が見られました。

農業改良普及課は、関係機関と協力して無人ヘリを使用した防除が安全かつ適切に行われるように支援します。

### しっかり株を養成しよう！ ～ニラ部会夜須・香我美支部現地検討会～



苗の生育状況を確認する参加者

4月25日、香美地区園芸部ニラ部会夜須・香我美支部が現地検討会を開催し、生産者4名が参加しました。

現地では、育苗用ハウスにて苗の生育状況を確認しました。農業改良普及課は、株養成時期の栽培管理のポイントや主な病害虫対策、管内のアザミウマ類の発生状況について説明しました。

参加者からは、「アザミウマ類に対する防除としてどのような農薬でローテーション散布をすればよいのか？」「夏場の軟腐病対策はどのようなものがある？」などの質問がありました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、ニラの安定生産を支援します。

### 計画的な収穫出荷でタマネギの廃棄ゼロへ！ ～国営ほ場の営農推進～



作業手順等を話合う  
参加者

4月28日、タマネギの収穫及び出荷に向けた検討会が行われ、双日土佐農人（株）や南国市、農機メーカー等14名が参加しました。

会議では、前作で課題となった出荷調製作業の遅れによる廃棄ロスを無くすため、ほ場ごとの作業スケジュールや出荷計画について検討しました。農業改良普及課からは、積算温度に基づく収穫適期について情報提供しました。

具体的な作業手順やほ場ごとの出荷量の記録方法等について参加者で意見を出し合い、天候不順等による計画変更時の連絡体制も確認しました。

農業改良普及課は、関係機関と連携し、タマネギの円滑な収穫出荷に向けた法人の取り組みを支援します。

## 集落営農に取り組みませんか？ ～中山間直接支払制度代表者説明会～



集落営農について  
説明する普及指導員

4月28日、30日、5月1日の3日間で香美市中山間直接支払制度代表者説明会が開催され、計62名が参加しました。

農業改良普及課は、中山間地域の現状と課題を説明し、解決策として集落営農組織の設立を提案しました。

集落営農組織の設立を検討している参加者からは、組織設立までの流れや何を準備したらよいかなど多くの質問が出されました。中山間地域で直面する集落の課題を示したことで、集落営農組織の設立への意欲を高めることができました。

農業改良普及課は、今後も市等関係機関と連携して集落営農の組織化を支援します。

## 高品質を維持しよう！ ～香美地区やっこねぎ部会目慣らし会～



説明を熱心に聞く生産者

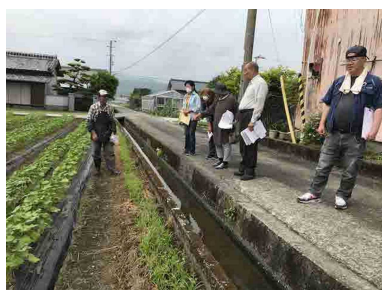
4月30日、J A高知県香美地区やっこねぎ部会が目慣らし会を開催し、生産者20名が参加しました。

本部会の小ネギは、市場から高い品質を評価されており、品質低下のリスクが高まる5月以降を見据え、昨年に引き続き市場事故防止を目的として実施されました。農業改良普及課は、園芸用ハウス等リノベーション事業に関する説明を行いました。

参加者からは「調製作業を再度見直すために、資料を持ち帰り家族に見せる」などの声が聞かれ、市場事故防止に積極的な姿勢が見られました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、香美地区やっこねぎ部会の品質向上に向けた取組を支援していきます。

## 追肥のタイミングを逃さず収量アップ！ ～露地オクラ現地検討会～



追肥のタイミングや  
有望品種について  
意見交換する生産者

5月20日、J A土長地区南国市オクラ部会が現地検討会を開催し、生産者7名が参加しました。

農業改良普及課は、今年の播種時期からの気象、今後の管理、病害虫防除のポイントやSAWACHIについて説明しました。また、J Aは、試験ほ場の概要と有望品種試験について説明しました。

生産者からは「本年は雨が少なく、水分不足で発芽不良になった」といった意見や「どのタイミングで追肥を開始すれば良いか」といった質問が出されました。また、有望品種試験ほ場では、新品種の特性についても生産者間で活発に意見交換がされました。

農業改良普及課は、今後もJ Aと連携し、オクラの収量向上に向けて支援します。